

駅通情報

第10号

時 評

○ これまで五回にわたって連載してきた「特殊な形態の駅通を探る」は、本号をもって一応打ち切ることとした。

特殊な形態の交通施設といえば、「運行屋・止前所」等、これまで発表してきた以外にも多数あるが、これらについては、追って、折り返しを見て取り上げることにした。

○ 本号からは、これに代って明治初期における北海道内(旧有人地を除く)駅通所の諸経費の収支について、資料を重点に取り上げることにした。

○ 開拓使所管経費の中における駅通関係経費については、既に拙著「北海道官駅(駅通)制の研究・中巻」に評述しておいたが、駅通所設備における経費の収支状況については、これまで断片的により取り上げてこ

なかったし、また、他の研究書でもこの点に触れているものはほとんど見られない。特に、開拓使所管時代については、制度的に変化が激しかったせいもあってほとんど原書等の保存がなされていないのが実情である。それで、私の手持ち資料のうち、明治初期に限定して紹介しようと思うのである。

要するに、駅通制度研究の欠落部分を少しでも埋める意味からも、この期間の駅通経費にライトを当てて明らかにしておこうと思うのである。

目 次

一 時 評	1
二 特殊な形態の駅通を探る	2
三 三崎山街道の一里塚と 札幌本道の里程標杭とを比較する	3
四 事務局使用	4

二 特殊な形態の駅通を探る

法制上如の施設「休泊所・出張所」(五)

前号に続いて、全道の出張所について記述する。

なお、「時評」にも記述したように本号をもって一応掲載を中止することにしたので了承されたい

(八) 似平駅通所忠類出張所

駅通名住 所	開設年月	廃止年月	取扱人
似 平中川郡明治三二、二	大正 五、三	古川茂吉	
出張所名住 所	開設年月	廃止年月	備 考
忠 類更別村明治四三、二	大正 五、三		

忠類出張所は、大嶽・似平間四里十六町の中間地点に設けられ、宿泊・休憩の施設として似平駅通取扱人吉川茂吉の申請によって開設された。

大嶽・幸置間の東西二路線は近接していて、どちらかの路線は必要性に乏しかったので、そのため大正五年三月、東側路線沿いの似平・忠類の二か所は廃止され、西側路線沿いの屋田(坂ノ下を改称昇格)・上札内の二か所が存置された。

なお、忠類出張所の位置略図は、西側路線に近接しているため、「(七)」の末尾に併記した。

(九) 空知太駅通所岩見沢出張所

駅通名住 所	開設年月	廃止年月	取扱人
空知太空知郡明治二二、四	明治三九、五	高畑利宣	
出張所名住 所	開設年月	廃止年月	備 考
岩見沢岩見沢村明治二二、四			管理 人 杉野夏次郎

前第五号に記述のとおり、道央農地の開拓が進み上川道路が開削され、岩見沢を始点として、空知太經由忠別太間五か所に駅通施設が設けられた。この五か所は、美英舎と呼称し、忠別太を第一号として順次連続番号を付した。「忠別太(現旭川)・音江法華(現音江)・空知太(現滝川)・奈井江・岩見沢」であるが、まず、この駅間距離を挙げると

空知太以北

空知太・音江法華間 六里十八町二十八間

音江法華・忠別太間 六里

空知太以南

空知太・奈井江間 三里九町四十六間

奈井江・岩見沢間 八里一町四十二間

となっている。右、五か所のうち岩見沢を除く四か所は、「人馬立兼休泊所」を営業種目として認可され、公式に駅通所として開所されたが、これに對し岩見沢のみ出張所として申請認可されている。また、五か所の輪で、高畑利宣を駅通取扱人として認可され、本人は空知太に居住して他の四か所には管理人を置いて運営した。

この点、規定上に問題が多いが、本稿では、出張所に

ついで論ずるのが目的であるので、ここでは、なぜ、岩見沢のみが出張所として申請し、かつ、認可されたのかについて考察することにした。いずれにしても資料が少なく推測の域を出ないが、岩見沢の位置及び施設の点からみると

①岩見沢は、上川道路の始発地に当たっているほか、札幌・市来知・角田方面等、各地への分岐点に当たっていて、交通上の重要拠点にあることから取扱人の直轄下に置いて、直接の指揮監督を要すると見られたこと。

②施設の点については、「①」に記述のとおり当初から岩見沢は、交通量が多く人足・馬匹の需要が多いと認められたことと、本郷である空知太から遠く需要に対応しての支線が行き届かないと思われたほか他の駅通所との施設の共用が見込めないこと等から直接、取扱人の指揮が必要と認められた。

等が挙げられる。
なお、出張所時代は、杉野夏次郎を管理人として運営していたが、この者は出張所廃止と共に退職し、駅通所への昇格と同時に、夏次郎の同業者と認められる杉野寅五郎が取扱人に就任したものと認められるが、昇格時の告示等は発見されず、明らかでない。

空知太 桑井江 岩見沢

市来知へ

角田へ

三河太 市来知

札幌方面へ

三

三崎山街道の一里塚と
札幌本道の里程標杭とを比較する
(その三)

前号の太政官布達四一三号を受けて明治六年七月開通した「札幌本道」にも、里程標杭が左記のとおり建設された。部類抄録によると、この建設状況は次のとおりである。

○室蘭港ヨリ森村へ渡海里程附

新道里程標記(幹事、民事局、会計局)

○程標記

一里 札幌創成橋ヨリ 四千三百四十一番杭

字ツキサツブ 同 二番杭ノ間

但札幌ニ向左傍 四千二百十一番杭

二里 同 二番杭ノ間

但同右傍 四千八十番杭所

三里 但同右傍

四里 三千九百五十番杭

同 一番杭ノ間

但同右傍

五里 三千八百十九番杭

同 二十番杭ノ間

但同左傍

馬場本道(新道)三三三二一八、二一五

同 九番杭ノ間

但同左傍

七里

三千五百五十九番杭
同 六十番杭ノ間

八里

三千四百三十二番杭
同 三番杭ノ間

九里

三千三百三番杭
同 四番杭ノ間

千歳会所迄九里二十五丁四十五間

三千二百七十三番杭
同 四番杭ノ間

十一里 但同右傍

字マホコチ 三千四十四番杭
同 五番杭ノ間

十二里 但同右傍

字アレバチリ 二千九百十三番杭
同 十四番杭ノ間

十三里 但同右傍

字タツコック 二千七百八十二番杭
同 三番杭ノ間

十四里 但同右傍

字ドキシヤラマフ 二千六百五十二番杭
同 五十三番杭ノ間

十五里 但同右傍

二千五百二十六番杭
同 七番杭ノ間

但同左傍

十六里

二千三百八十九番杭
同 九十番杭ノ間

但同左傍

高麗駅所前迄十六里二十三丁四十五間
十七里 字マコマイ 二千二百六十番杭
同 一番杭ノ間

但同右傍

(以下次号)

◎事務局たより

○史料寄贈お礼

左記の資料を頂戴しました。お礼申し上げます。

標基町史 測路図 標基図書館

北海道のおまわりさん今昔物語 札幌市 山下 笠橋氏

人間像 札幌市 標 比呂志氏

菅江真澄と北海道 同 同

発行年月日 平成十年八月一日

頒布 無料

発行者 ○〇五 札幌市南区同治四番五丁目 三の一

史学研究会代表 宇川 隆雄

TEL 011-571-3802